

令和  
6年度

# 八戸市遺跡調査報告会

## 発表資料集



八戸市 松ヶ崎遺跡

### 目次

はちのへじょう  
◆ 八戸城跡（江戸時代）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P4

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 主事兼学芸員 上ノ山 拓己

くまのどう  
◆ 熊野堂遺跡（平安時代）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P6

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 主査兼学芸員 横山 寛剛

まつがさき  
◆ 松ヶ崎遺跡（縄文時代）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P8

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 主事兼学芸員 宇庭 瑞穂

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 主事兼学芸員 吉田 仁香

#### 【特別報告】

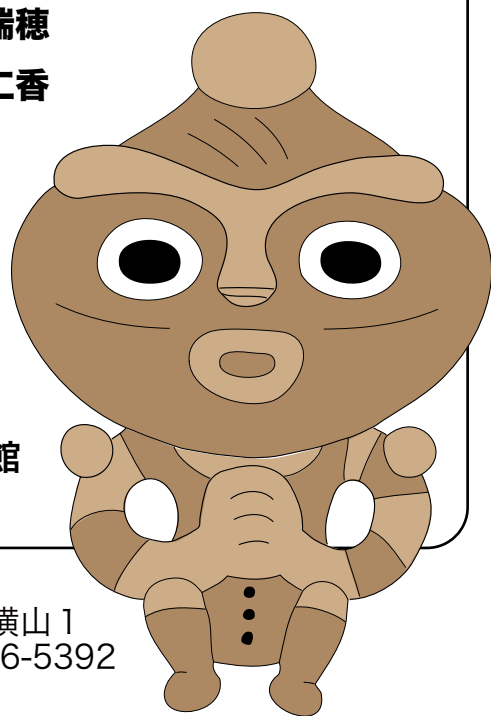
ひらはた  
◆ 平畑(3)遺跡（縄文時代）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P10

三沢市教育委員会 生涯学習課文化財保護係長 工藤 司氏

◎ 日時：2024年11月9日 午後2時から

◎ 会場：是川縄文館 1階 体験交流室

◎ 主催：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館



八戸市埋蔵文化財センター  
**是川縄文館**

〒031-0023 青森県八戸市是川字横山1  
TEL 0178-38-9511 / FAX 0178-96-5392

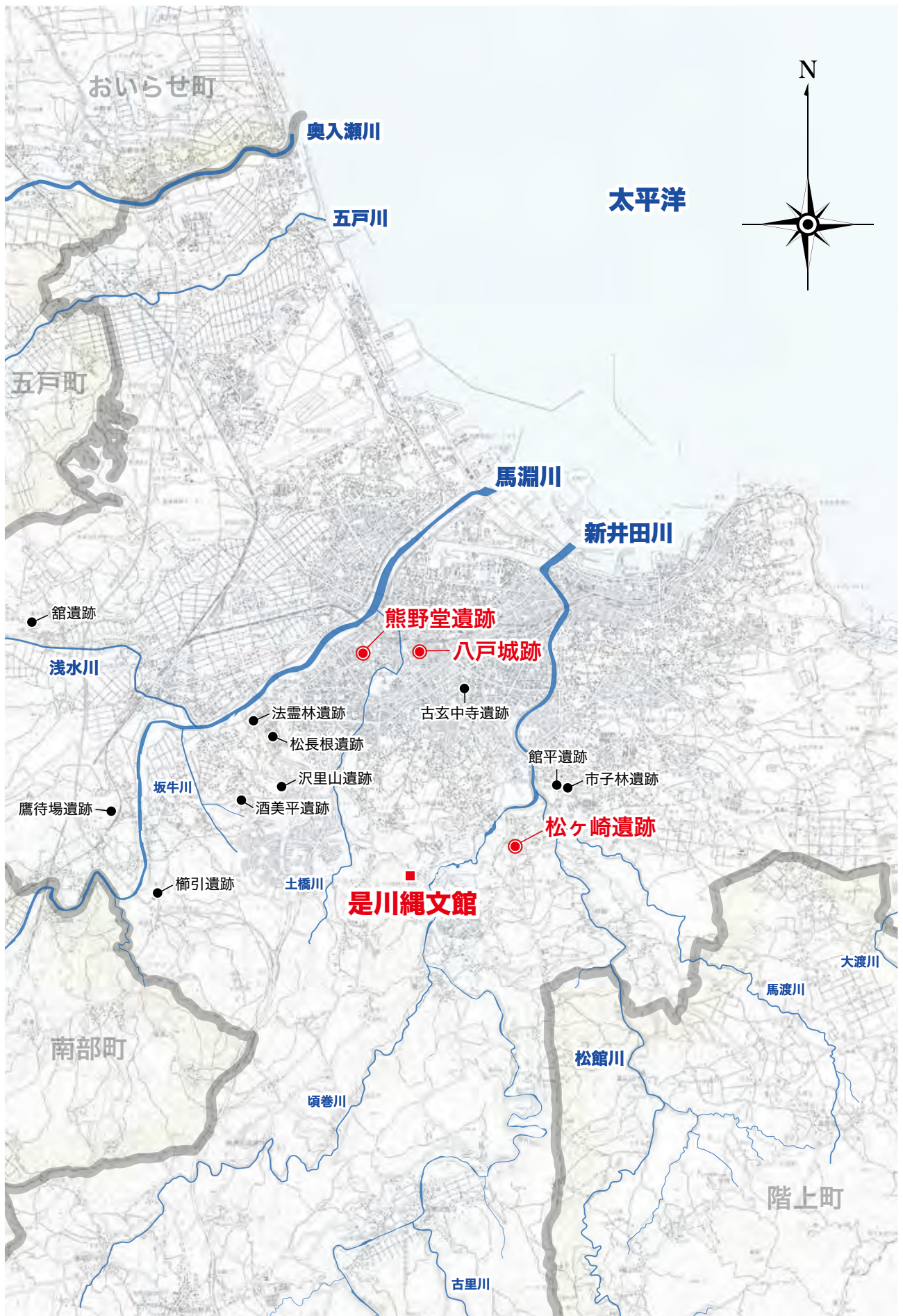
## 令和 6 年度発掘調査遺跡一覧

No.	遺跡名	調査原因	調査面積 (㎡)	調査期間	時代／種類	
1	館平遺跡①	個人住宅建築	39	4月8日～10日	縄文・奈良・平安・中世・近世 ／散布地・城館跡	
2	古玄中寺遺跡	個人住宅建築	16	5月8日	縄文／散布地	
3	熊野堂遺跡①	個人住宅建築	19.5	5月27・28日	縄文・奈良・平安／集落跡	
4	熊野堂遺跡②	個人住宅建築	36	5月24～27日	縄文・奈良・平安／集落跡	
5	松ヶ崎遺跡① (22 地点)	太陽光発電設備設置	320	7月16～19日	縄文・奈良・平安／集落跡・貝塚	
6	館遺跡①	資材置場造成	428	7月22～26日	平安／散布地	
7	櫛引遺跡①	墓地造成	10	8月1日	縄文・奈良・平安・中世／集落跡・ 城館跡	
8	法霊林遺跡①	個人住宅建築	20	6月10・11日	縄文・奈良・平安／集落跡	
9	櫛引遺跡②	個人住宅建築	10	8月2日	縄文・奈良・平安・中世／集落跡・ 城館跡	
10	法霊林遺跡②	事務所建設	6	8月8・9日	縄文・奈良・平安／集落跡	
11	沢里山遺跡	個人住宅建築	11	8月27日	縄文・奈良・平安／集落跡	
12	松ヶ崎遺跡② (23 地点)	個人住宅建築	1	9月4日	縄文・奈良・平安／集落跡・貝塚	
13	市子林遺跡①	個人住宅建築	6.2	9月11日	縄文・古墳・奈良・平安・中世・ 近世／集落跡	
14	鷹待場遺跡	個人住宅建築	9	9月12日	縄文・奈良／散布地	
15	松長根遺跡	寄宿舍建築	19	9月20日	縄文／散布地	
16	熊野堂遺跡③	分譲住宅建築	12	9月25・26日	縄文・奈良・平安／集落跡	
17	熊野堂遺跡④	個人住宅建築	12.25	10月8日	縄文・奈良・平安／集落跡	
18	熊野堂遺跡⑤	個人住宅建築	1.25	10月16日	縄文・奈良・平安／集落跡	
19	酒美平遺跡	個人住宅建築	12	10月25日	縄文・飛鳥・奈良・近世／集落跡	
20	館平遺跡②	個人住宅建築	10	11月1日	縄文・奈良・平安・中世・近世 ／散布地・城館跡	
本 発 掘 調 査	21	<b>松ヶ崎遺跡 11 地点</b>	<b>長芋作付け</b>	<b>2,322</b>	<b>4月22日～11月30日 (予定)</b>	<b>縄文・奈良・平安／集落跡・貝塚</b>
	22	松ヶ崎遺跡 23 地点	個人住宅建築	62	10月3日～11月7日	縄文・奈良・平安／集落跡・貝塚
	23	<b>八戸城跡 54 地点</b>	<b>道路改良工事</b>	<b>157</b>	<b>9月9～13日</b>	<b>縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近世・ 近代／城館跡</b>

報告遺跡

※ 11月7日現在





令和 6 年度発掘調査遺跡位置図

# はちのへじょう 八戸城跡

- 殿様も通った？ 大手御門前を調査 -

## 1. 遺跡の概要

八戸城跡は、八戸市中心部の内丸地区<sup>うちまる</sup>に所在する遺跡で、標高約 20m の段丘の縁に立地しています。これまで 55 地点で発掘調査が行われ、縄文・弥生・古墳・奈良・平安・江戸時代の遺構や遺物がみつっています。特に江戸時代の遺構は、三八城公園<sup>みやぎ</sup>の整備に伴う発掘調査などで掘立柱建物跡や塀または柵跡、土塁、堀跡などお城に関係すると考えられる施設の跡がみつっています。

今回報告する第 54 地点は、市道の改修工事に先立ち令和 4（2022）年度から 4 年計画で調査を行なっています。ここでは、令和 5（2023）・令和 6（2024）年度の調査成果について報告します。調査面積は令和 5 年度が約 100 m<sup>2</sup>、令和 6 年度が約 157 m<sup>2</sup>です。調査期間は令和 5 年 10 月 16 日～ 30 日と、令和 6 年 9 月 9 日～ 13 日です。

## 2. 検出遺構

2 年間の調査で、古代の<sup>たてあなたてものあと</sup> 竪穴建物跡 1 棟、江戸時代以降の堀跡<sup>ほり</sup> 2 条・塀または柵跡<sup>さく</sup> 3 基・溝跡 1 条を確認し、そのほかに時期不明の直径約 30～40cm の穴を複数確認しました。

堀跡は調査区の東西両端でみつき、法面は約 40～45 度の勾配を付けてつくられていました。塀跡は、堀跡に沿うような形で東西両側でみつかりました。溝跡は、西側の塀跡とほぼ並行してみつかりました。それぞれ遺構は重複しておらず、遺構どうしの前後関係は不明です。

## 3. 出土遺物

江戸時代以降の銭貨<sup>かんえいつうほう</sup>（寛永通宝ほか）がみつかりましたが、遺構からは時期を特定できる遺物はみつかりませんでした。

## 4. まとめ

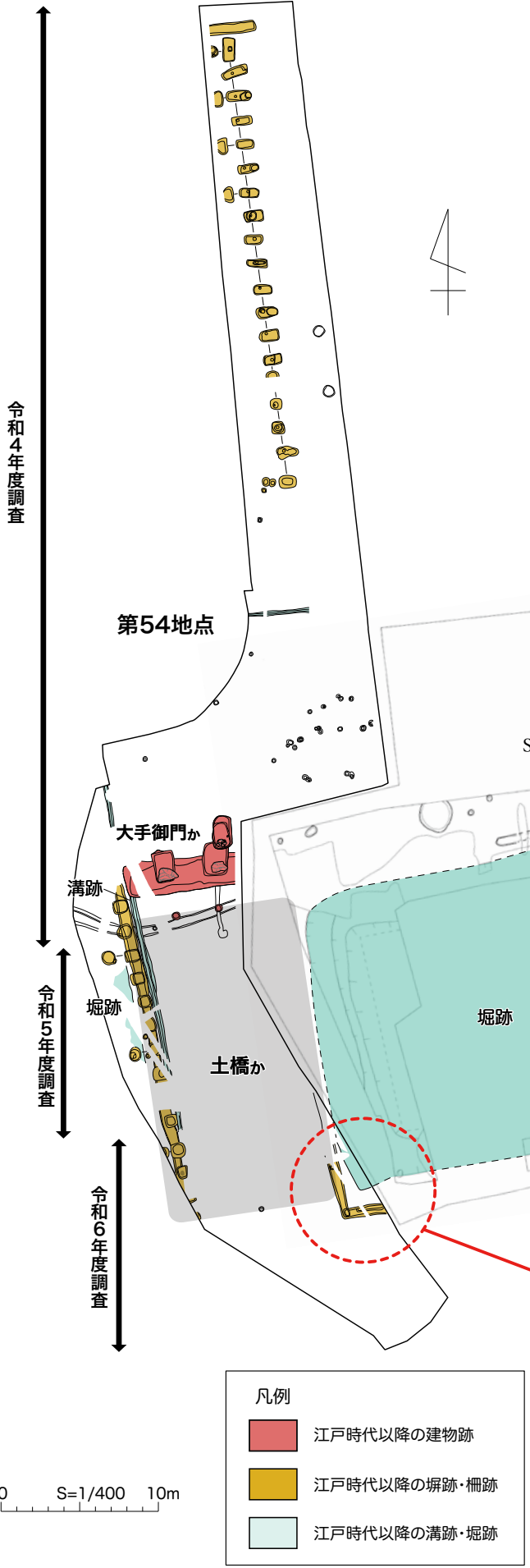
第 54 地点では、令和 4（2022）年に本丸の正門にあたる大手御門跡<sup>おおてごもん</sup>と推定される遺構がみつっており、今回の調査成果と合わせることで本丸の出入り口（虎口<sup>こぐち</sup>）の様子が明らかになりました。

今回の調査では、江戸時代以降とみられる堀跡の一部を確認しました。これまで第 54 地点で検出した遺構を江戸時代の絵図面と照合すると、みつかった堀跡は内堀<sup>うちほり</sup>とみられます。堀跡は調査区東側と西側にそれぞれ 1 条ずつみつかり、その間は繋がっていない空間となっています。絵図面では本丸と二の丸をつなぐ橋が描かれており、描かれた橋は位置関係から今回みつかった堀の間の空間地と一致します。このことから、本丸と二の丸は土橋で繋がっており、土橋の幅は約 11m で、土橋の上面に古代の竪穴建物が残っていたことから、地山を掘り残してつくったこともわかりました。土橋の堀に面した側の両端には塀または柵跡がまわっており、西側の塀または柵跡に並行する溝跡が確認できました。一部の絵図には、堀に面した土橋の端に柵<sup>さく</sup>のようなものが描かれており、今回みつかった塀または柵跡は、この柵のようなものの跡と考えられます。土橋の塀または柵は橋から堀への転落防止、溝は排水溝の役割などが想定されます。

また、現在調査中の市道が江戸時代の城の通路に沿う形でつくられていることもわかりました。

（上ノ山 拓己）





八戸城絵図面 (文久改正八戸御城下略図)  
赤枠部分が第54地点にあたると思われます

※八戸市立図書館蔵



令和6年度調査区全景

SG GROUPホールはちのへ(公会堂)脇の道路を調査しました

第21地点(平成8年度調査)



内堀跡(東側)と並行する堀または柵跡  
堀または柵跡の底面には柱を建てたとみられる  
穴が見つかった

八戸城跡第54地点遺構配置図

# くまのどう 熊野堂遺跡

- 八戸市内で3点目の石帯の飾具を発見！ -

## 1. 遺跡の概要

本遺跡は八戸市長根に所在し、馬淵川沿いの標高16mの低位段丘上に立地する奈良時代から平安時代の遺跡です。これまでの発掘調査により200棟以上の古代の<sup>たてあな</sup>堅穴建物跡がみつかり、特に平安時代には集落の一部を掘がめぐる「環濠集落」または「防御性集落」といわれる大規模なムラであったことが明らかになっています。

令和5年度の発掘調査地点は遺跡の南東側に位置し、調査原因は個人住宅建築によるものです。調査期間は令和5年5月8～25日、調査面積は104㎡です。

## 2. 検出遺構

調査の結果、平安時代の<sup>どこう</sup>堅穴建物跡4棟と土坑4基、時期不明の<sup>みぞじょう</sup>溝状土坑2基がみつかりました。SI218堅穴建物跡には火山灰が厚さ5cmほどの層状に堆積していました（自然堆積）。この火山灰は科学分析により西暦915年に十和田火山から噴出した火山噴出物（十和田aテフラ）であることが判明し、SI218が使用されたのは西暦915年より前であることがわかりました。SI218の北壁にはカマドがついており、その周辺からはほぼ完全な形の<sup>はじきかめ</sup>土師器甕や<sup>せきたい</sup>軽石などと一緒に石帯の<sup>かざりぐ</sup>飾具が出土しました。これらの出土遺物は、堅穴建物に住んでいた人たちが別の場所へ移るときに残したものと考えられます。

SI219堅穴建物跡の埋土にはSI218と同じ特徴をした火山灰がみられましたが、層状ではなくまばらに堆積していました。これは、火山灰が降ったあとに掘り返された土で建物跡が埋められたことを示しています（<sup>じんい</sup>人為堆積）。つまり、SI219は十和田aテフラが堆積した西暦915年より後に廃絶されたものとわかり、最後は人の手によって埋められたとみられます。

土坑には円形のもの<sup>すみまる</sup>と隅丸方形のものがあり、埋土の観察からSI219と同じく埋められたものとみられます。本遺跡のこれまでの調査でも同じような土坑が多数みつっています。

## 3. 出土遺物

堅穴建物跡から土師器甕・<sup>つき</sup>坏、<sup>すえき</sup>須恵器甕・<sup>つぼ</sup>壺、石製品、鉄製品（<sup>とうす</sup>刀子）・<sup>てっさい</sup>鉄滓が出土しました。

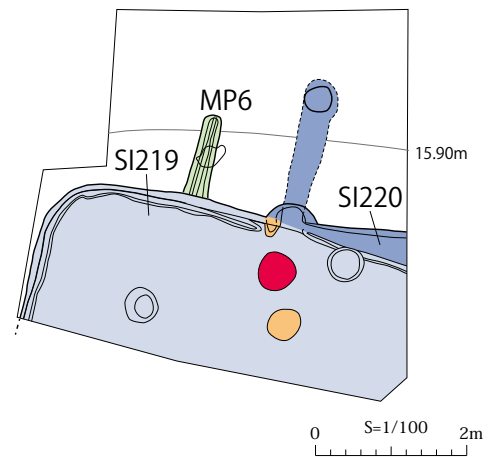
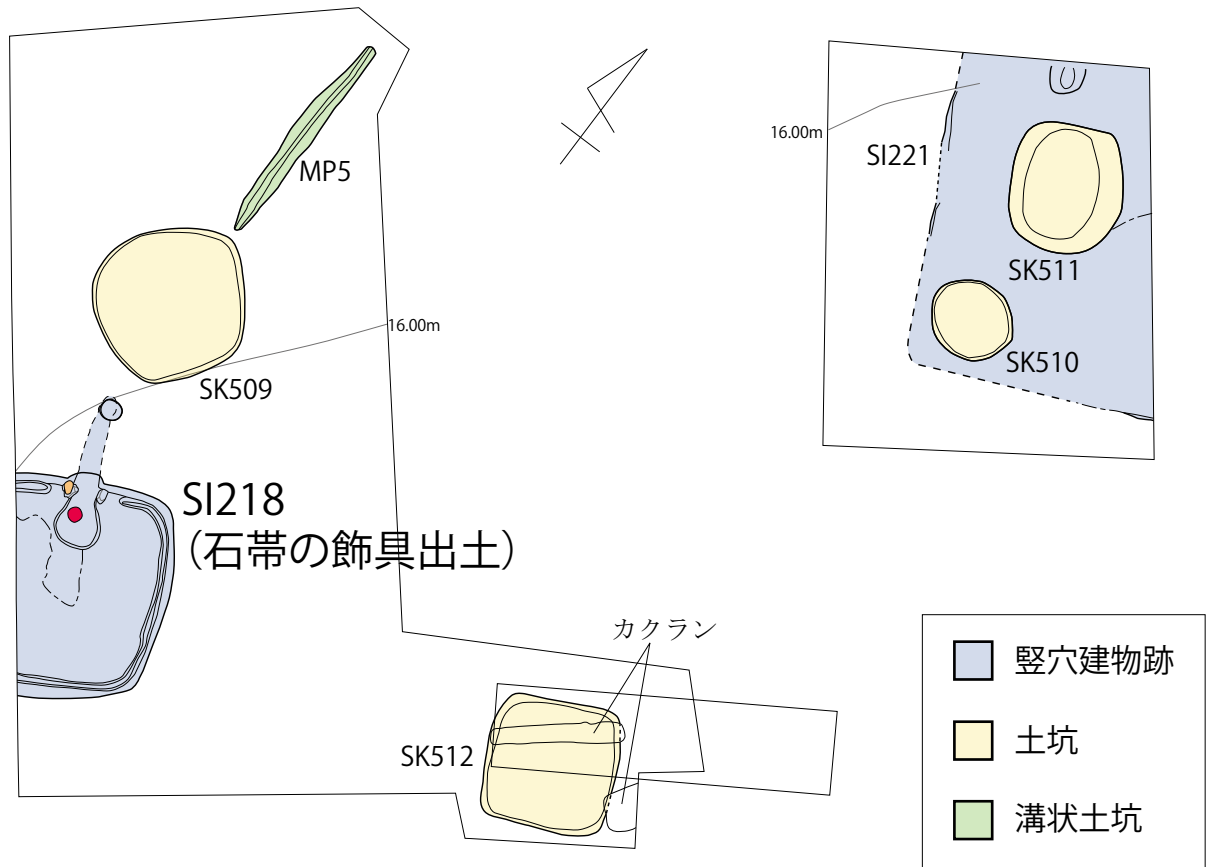
## 4. まとめ

今回の調査で特に注目される成果は、平安時代のSI218堅穴建物跡から、石帯の飾具がみつかったことです。石帯とは、石で作られた飾具をつけた<sup>かわおび</sup>革帯（ベルト）のことで、律令制のなかで役人などの身分や官位を示すものとして身につけられました。

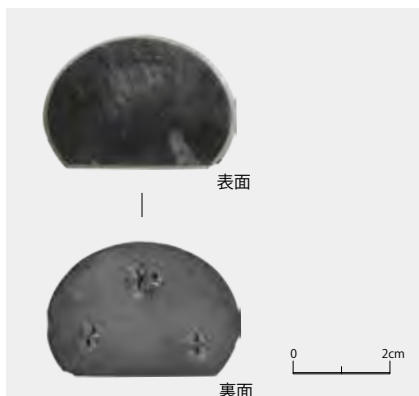
本資料は長さ4.0cm、幅2.8cm、厚さ0.6cmを測ります。石材は<sup>こうしつけつがん</sup>硬質頁岩です。かまぼこのような形をしており、こうした形の飾具は「丸軛」とよばれています。色は黒色で光沢を帯び、石とは思えないほど滑らかな手触りをしています。裏面に<sup>あな</sup>一对の孔が3箇所<sup>まるとも</sup>にあり、孔の底が貫通しています。この孔に金属線を通して、革帯などに装着していたと考えられます。

石帯の飾具は、これまで青森県内の遺跡から9点、八戸市では<sup>たむかい</sup>田向遺跡から2点がみつっています。県内でも数少ない非常に貴重な出土品です。

（横山 寛剛）



熊野堂遺跡第8地点遺構配置図



SI218 竪穴建物跡から出土した石帯の飾具



出土したときのようす

# まつがさき 松ヶ崎遺跡

- 縄文時代の大集落！約 200 棟以上の竪穴建物跡を確認 -

## 1. 遺跡の概要

本遺跡は八戸市中心部から南東約 4 km に位置し、新井田川とその支流の松館川に挟まれた標高約 22 ～ 45m の台地上に立地しています。これまでの調査によって、本遺跡は市内最大規模の縄文時代中期(約 5,000 ～ 4,500 年前) を中心とした集落跡であることがわかっています。

今回報告する第 11 地点は、遺跡のほぼ中央に位置します。長芋作付けに先立ち、令和元(2019)年から調査を行い、今年で調査 6 年目です。調査対象面積約 8,810 m<sup>2</sup>のうち、約 2,322 m<sup>2</sup>を現在調査中です。

## 2. 検出遺構

今年度の調査では、縄文時代の竪穴建物跡 96 棟・掘立柱建物跡 2 棟・土坑 192 基以上(フラスコ状土坑 54 基・土坑墓 30 基)、古代の掘立柱建物跡 1 棟などがみつかっています。

今年度の調査区全体で、縄文時代中期の竪穴建物跡が多数みつかりました。建物の時期は、中期中頃や中期後半のものが特に多く、中期終わり頃のもの調査区の北側で数棟みつかりました。今年度の調査区は全体に遺構の密度が高く、2 棟以上が重なっているものが非常に多くみられます。いくつかの建物では、建物を拡張した痕跡のあるもの(SI103B 竪穴建物跡など)や、火事などで焼けたような痕跡のあるもの(焼失住居)もみつかっています。SI205 竪穴建物跡は、床面から焼土や炭化材が多量にみつかる焼失住居で、床には炭化材のほかに炭化したクリが密集して検出されました。

調査区北側では竪穴建物跡のほかに、貯蔵施設とされるフラスコ状土坑や、墓の可能性のある土坑などが密集しています。フラスコ状土坑は深さ 2 ～ 3m のものが多く、土器などの遺物が多量に出土したのものもあります。

## 3. 出土遺物

今年度の調査では、縄文土器(中期中頃～終わり頃、後期前葉)や石器(石鏃・石槍・磨製石斧・敲石・石皿・すり石など)、土製品(土偶・鐸形土製品など)、石製品(石棒・石冠・垂飾品など)、炭化種子(クルミ・クリなど)、獣骨(シカなど)、コハク大珠など、多量の遺物が出土しました。

出土した縄文土器は、縄文時代中期中頃から後半のものが特に多く、中期終わり頃のものごく少数です。また、遺構はみつかりませんが、縄文時代後期前半(約 4 千年前)の遺物も一定数出土しています。例えば、SI110 竪穴建物跡は中期後半の建物ですが、建物が使われなくなったあとの凹地から後期前半の土器が多数出土していることから、凹地を捨て場として利用したと考えられます。

## 4. まとめ

これまでの調査によって、第 11 地点における縄文時代中期の集落のようすがわかってきました。

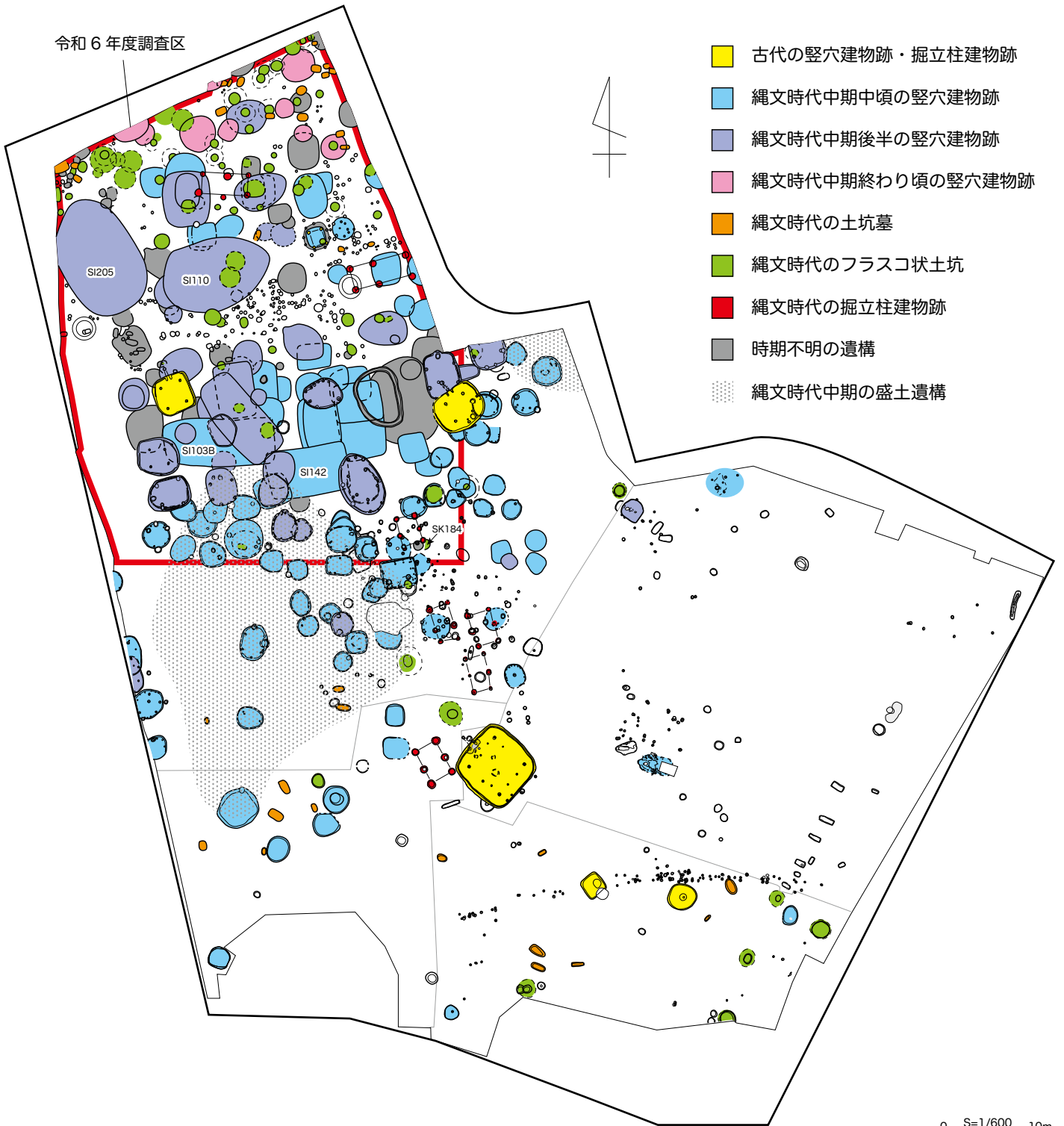
第 11 地点調査範囲の北西側では 200 棟以上の竪穴建物跡が、北側と東側では多数のフラスコ状土坑や土坑墓が分布しており、いずれの遺構も北側に密集しています。建物の分布を時期ごとにみると、南側から北側に建物に移り変わっていくようすが窺えます。第 11 地点の現在の地形はほぼ平坦ですが、縄文時代当時は北側から南側に緩やかに下降する地形だったことが推測されます。今後検討が必要ですが、建物の時期ごとの分布状況と併せて考えると、標高の低い南側から標高の高い北側へと、少しずつ集落が変遷していき、その過程で標高の低い南側に盛土遺構(捨て場)が形成されたと推測されます。

(吉田 仁香・宇庭 瑞穂)



令和6年度調査区

- 古代の竪穴建物跡・掘立柱建物跡
- 縄文時代中期中頃の竪穴建物跡
- 縄文時代中期後半の竪穴建物跡
- 縄文時代中期終わり頃の竪穴建物跡
- 縄文時代の土坑墓
- 縄文時代のフラスコ状土坑
- 縄文時代の掘立柱建物跡
- 時期不明の遺構
- 縄文時代中期の盛土遺構



松ヶ崎遺跡第11地点遺構配置図



SI103B・SI142 大型竪穴建物跡（南から）



SI205 竪穴建物跡 炭化クリ出土状況（東から）

## 【特別報告】 <sup>ひらはた</sup>平畑 (3) 遺跡

- <sup>おがわら</sup>小川原湖南岸域で営まれた縄文時代中期の集落の調査 -

### 1. 遺跡の概要

平畑 (3) 遺跡は三沢市の南東部を通る青森県道八戸野辺地線（県道 8 号線）沿いに所在する、東西約 600 m × 南北約 400 m に広がる遺跡です。小川原湖に南接する<sup>あね</sup>姉沼の南側、標高約 14 ～ 26 m の段丘上に立地します。姉沼の南側から東側にかけての丘陵縁辺部一帯には縄文～平安時代にかけての広大な遺跡が連なるように分布しており、それらの西端に位置しています。

今回報告する発掘調査は遺跡の東端部約 2,700 m<sup>2</sup>を対象に、平成 29 (2017) 年度から令和 5 (2023) 年度まで実施しました。遺跡内を南北に通る市道の改修工事に先立つもので、防衛省の「特定防衛施設周辺整備調整交付金」を活用しています。

### 2. 検出遺構

7 か年 (延べ 32 ヶ月) にわたる調査の結果、表に示したように多種多様な遺構を検出しました。大部分は縄文時代中期初頭～前葉 (円筒上層 a～c 式期：約 5,000 ～ 4,700 年前) の時期幅に収まるものであり、<sup>たてあな</sup>竪穴建物、<sup>ちよぞう</sup>貯蔵施設と考えられる<sup>どこう</sup>フラスコ状土坑 (転用墓含む)、<sup>すぼ</sup>捨て場、<sup>かいま</sup>貝塚等が認められることから、この時期、<sup>きょじゆういき</sup>居住域・<sup>はいま</sup>貯蔵域・<sup>はいま</sup>廃棄域・<sup>はいま</sup>墓域で構成される集落が形成されていたことが判明しました。

主な遺構 (検出数)	備考
竪穴建物 (23)	縄文中期の大型 6
土坑 (103)	フラスコ状土坑多数
溝状土坑 (3)	縄文中期中葉以降
捨て場 (3)	縄文中期初頭～前葉
貝塚 (2)	フラスコ状土坑内
埋設土器 (6)	縄文中期初頭～前葉

この時期の竪穴建物やフラスコ状土坑は調査区全域に分布しますが、とりわけ調査区の南側、平坦地の縁辺部に密集するように分布します。一方、埋設土器はすべて調査区北側に分布し、近接しています。また、捨て場は斜面付近に形成されています。このような各種の遺構分布から、集落を形成するにあたり、居住域 (竪穴建物)、貯蔵域 (フラスコ状土坑)、廃棄域 (捨て場) を意識した、計画的な土地利用が窺えます。

### 3. 出土遺物

調査区全域から種類・量共に多くの遺物が出土し、総重量は 3 トンを超えました。内容的には遺構と同様、大部分が縄文時代中期初頭～前葉であり、大部分は土器や石器ですが、この時期の土製品 (土<sup>ど</sup>偶・<sup>せきぼうじょうどせいひん</sup>石棒状土製品等)、石製品 (石棒・<sup>せつかん</sup>石冠・<sup>すいしよくひん</sup>垂飾品等)、炭化した植物遺体 (クリ・クルミ等) のほか、遠隔地との交流を示唆する遺物 (南東北など他地域の特徴を併せ持つ土器、ヒスイ<sup>たいしゆ</sup>大珠、琥珀製品、アスファルトが付着した石器や<sup>こくよう</sup>黒耀石製の石器) が出土しています。

### 4. まとめ

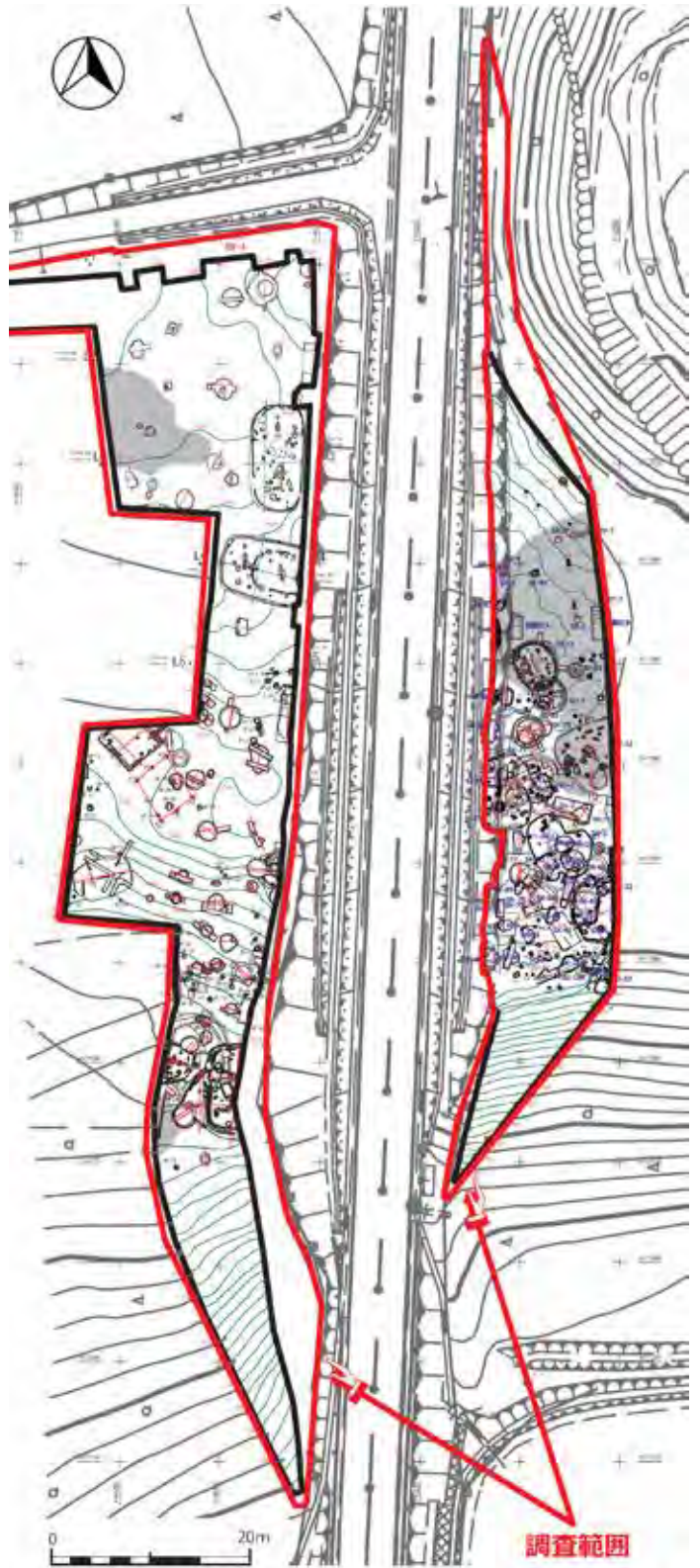
今回の調査で発見された縄文時代中期初頭～前葉の集落は、遺構や遺物の内容から、姉沼南岸域に形成された拠点的な集落であると考えられます。また、当該期の集落跡の検出は、三沢市内 (小川原湖北～東岸域及び姉沼南岸域) において初の事例となりました。手前味噌ですが、三沢市の歴史的空白を埋めるだけでなく、当時、青森県を中心に展開した「円筒土器文化圏」における集落の分布や地域性等を考えるうえでも注視される資料です。

現在、令和 9 (2027) 年度の発掘調査報告書刊行に向け、調査記録や出土品等の整理作業を進めています。破片数にして約 157,000 を超える土器の接合・復元など一筋縄ではいかないものが多々ありますが、理化学的分析等も含め、様々な検討を加えていきたいと考えています。(三沢市教育委員会 工藤 司)





遺跡位置図



遺構配置図



竪穴建物跡（縄文時代中期初頭）



フラスコ状土坑の断面（縄文時代中期初頭）



捨て場（縄文時代中期初頭～前葉）の調査風景





### 発掘調査作業のようす

発掘調査はたくさんの作業員さんに支えられています。

左上：八戸城跡第 54 地点 右上：熊野堂遺跡

下段：松ヶ崎遺跡第 11 地点

旧石器	縄文						弥生	古墳	古代			中世			近世	近代
	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期			飛鳥	奈良	平安	鎌倉	室町	安土桃山	江戸	明治
			←→						←→					←→		
			平畑(3) 松ヶ崎						熊野堂					八戸城		

### 今回の報告遺跡の主な時代

#### 令和 6 年度 八戸市遺跡調査報告会 日程

- 9：00 出土品展示室開場
- 13：30 報告会受付開始
- 14：00 開会挨拶
- 14：05 令和 6 年度調査概要
- 14：10 調査成果報告① 八戸城跡
- 14：30 調査成果報告② 熊野堂遺跡
- 14：50 休憩
- 15：05 調査成果報告③ 松ヶ崎遺跡
- 15：25 特別報告 平畑(3) 遺跡 (三沢市)
- 15：45 質疑応答
- 15：55 閉会挨拶

